

日中友好協会  
おかやま  
題字 萩原田 親  
No. 518  
2007/9/5  
日中友好協会  
岡山支部  
〒703-8255  
岡山市東区3-8-30-513  
TEL.086-272-8010  
郵便振替口座  
01250-0-3435  
http://rzhong.jp/  
index.html

日中友好新聞  
発行所  
日本中国友好協会  
〒101-8255 東京都千代田区千代田  
西側3-1-1 第九大学ビル5階

日中友好協会岡山支部ホームページ  
http://rzhong.web.infoseek.co.jp  
メールアドレス  
rzhong86@hotmail.co.jp

日中友好協会岡山支部ホームページ  
http://rzhong.web.infoseek.co.jp  
メールアドレス  
rzhong86@hotmail.co.jp

# 倉敷支部第3回定期総会

## 8月25日(土)に開催

日中友好協会倉敷支部の第3回定期総会は、去る8月25日(土)午後2時より、倉敷市笹沖くらしき健康福祉プラザにて開催されました。この日他のいくつかの行事とも重なりましたが、18名が参加しました。

2時からの開会に先立ち、本部製作のDVD「泥にまみれた靴で」(侵略戦争参加の元兵士達の証言)を観て、侵略戦争の実態を改めて実感しました。

総会は支部長あいさつの後、前年度の活動報告及び決算報告、監査報告が行われ、その後今年度の活動方針、予算案の提案が行われました。

討論の中では、「郵政民営化で通信費は大丈夫か?」機関紙のむつかしいのは運動が具体化されていないのではないかと、もっと具体的なものをのせるべきだ、「孤児問題をもっと知りたい、手助けしてくて入会した」と又文書発言で、「企業で若者に反中国、反共の書物を読ませる等し、一定の影響を与えているが、これにどう対処すべきか等々の意見が寄せられ、対中国との友好交流は私達の大切な仕事であるが、云々べきは云々態度も必要との認識で一致しました。討論のあと、議案を満場異議なく承認し、最後に新役員を選出を行って閉会しました。

なお、岡山支部からは小林事務局長が出席、ご挨拶をいただきました。

今年度の役員は以下のとおりで、新しく2人の役員を追加承認しました。

- 支部長 大森久雄
- 理事長 栗本泰治
- 事務局長 宮地義男
- 理事 大本芳子
- 河田千春
- 平井昭夫
- 星原 徹
- 早川正樹(新)
- 山縣武次郎(新)
- 監事 矢引健介



# 開拓団跡地等を訪ねる

## 日中友好の旅

①

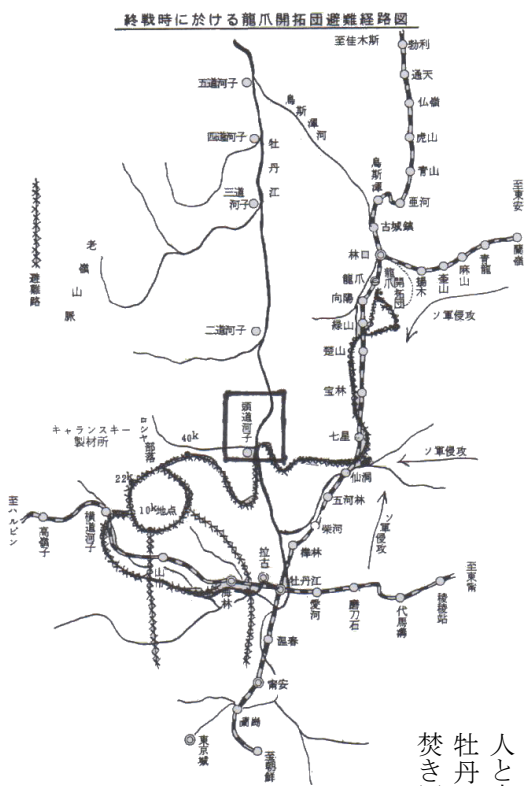
小林軍治

懐かしさと謝罪の旅  
私は八月六日から十二日にかけて、二〇〇七年 岡山県の開拓団跡地を訪ね友好を促進する旅に参加し、日中不再戦の誓いを一層固めました。

この旅には、中国帰国者の日本語教室・岡山の会代表の井上進夫さんを団長に十四名が参加しました。内訳は、龍爪開拓団関係者三名、満鉄・関東軍・撫順引揚者が各一名、日本語教室関係者三名、いしげえ会一名、高校教職員四名(大安寺高校三名、勝間田高校一名)です。

行程は、高見英夫原告団事務局長の逃避行の足跡(林口→龍爪→頭道河子→拉古→牡丹江→長春→瀋陽)と中国人養父母の墓参を中心に行われました。その他、大連の旧満鉄本社、旅順の水師営会見所、撫順の戦犯管理所、長春の偽皇宮・旧関東軍司令部、瀋陽の九・一八記念館なども含まれています。

参加者は、自分の関係する場所、親兄弟・親戚・友人・知人を思い出し懐かしさとともに悔悟・謝罪の気持ちを表わしました。父が軍人であった人は、私はどこかでこの地の人に、許して下さいと謝りたいと涙ながらに話しました。



頭道河子(牡丹江河の河原)左から小林、高見、織田さん

### 忘れられぬ頭道河子

多くの参加者が忘れられない場所となつたのが頭道河子です。

この地は八月十二日に、林口から一路牡丹江を目指して線路に沿って避難していた龍爪開拓団が、ソ連軍の接近により七星と仙洞の間を荷車を捨て大湿原に入り、八月十九日前後に通過した場所です。高見・織田・小林の三名は、この場所から九月上旬に横道河子辺りで降参し捕虜になるまでの約一ヶ月山中を彷徨い、その間に弟・妹を一人・二人と失いました。頭道河子の側を流れる牡丹江河の河原で花束を置き、線香を焚き冥福をいのりました。

私は、遠く六二年前の八月中旬に母に背負われて牡丹江河を渡り、この地を通つたかと思うと、込み上げてくるものがありました。同時に、二〇〇三年三月三十日に私の退職を見届けるようにして、八八才で亡くなった母の姿を思い浮かべ、あらためてよくぞ生きて日本に連れ帰ってくれたと感謝の気持ちでいっぱいになりました。 つづく

### 各種団体 行事予定

- 9月8日(土)  
市民のつどい「前夜祭メルパグラウンド  
映画「フラガール」 ¥800  
15時〜 18時〜 2回上映
  - 9日(日) 市民のつどい  
中国残留孤児「問題と憲法  
10時から13時30分  
岡山大学創立50周年記念館  
当日¥1000
  - 9月18日(火)  
アリスの広場 宣伝行動  
柳条湖事件76周年ピラ配布
  - 9月20日(木) トルコの夕べ  
メヴラーナ出生800年記念  
トルコ音楽、旋回舞踊セマ、等  
(トルコ料理等) 岡山市民会館  
開場16時 開演18時  
前売¥2500 当日¥3000
  - 9月22日(土)  
一人芝居 釈迦内極限「有馬理恵  
岡山県天神山文化プラザ  
18時30分 ¥1500
- 各種チケットあります。  
ご希望の方は日中岡山支部までご連絡ください。 086-272-3010

次回の新聞送付作業は  
9月11日(火)午後1時半〜  
民主会館2階で行います。  
前回お手伝いくださった方です。

和製  
林田内内井  
小真竹竹坪

# 現代中国の教育事情 ④

## 山陽学園大学教授 班 偉

### 民工子弟の教育問題

中国の平均的なサラリーマン家庭では、夫婦共働きは当たり前です。仮に1人が月給を2000元もらえたとすると、1元が日本円では14円ですから約3万円くらい。

夫婦共働きで得た収入のほぼ半分は子どもに教育に振り込まれるという家庭は普通で、家計への負担が非常に大きいわけです。

今日の中国では、教育費、それから住宅購入費、医療費、この3つが庶民にとって一番の悩みの種です。

最近、いわゆる「貴族学校」と呼ばれている私立学校は都市部で非常に流行っています。「貴族」というのももちろん中国にはイギリスのような貴族階級はいません。

「貴族」とは、中国語では「金持ち」という意味で、金持ちの坊ちゃん、お嬢ちゃんに通う学校なんです。学費はべらぼうに高く、サラリーマンの年収の十数年分が軽く飛んでしまいます。田舎の貧しい農民だと、恐らく一生かかっても稼げないような金額が必要で、貧富の格差が極端に大きいわけです。

さらにもう一つの問題として、レジメには書いていませんが、中国の新聞に民工子弟の教育問題がよく取り上げられています。民工とは、田舎から上海、広州、北京などの大都会に流れ込んできた出稼ぎ労働



幼い子供をつれて移動する出稼ぎ労働者

者農村の人です。

その人数は、今では大体1億5000万人といわれています。だから、毎年旧正月になると、広州とか上海の駅前のは場所は連日、何万人もの人込みになり、民族大移動といわれるほどの人出です。出稼ぎには単身で行く人もいますが、30代、40代ぐらいになると、奥さんや子どもを連れて一緒に行き、殆ど貧民街のようなところに住んでいます。

この民工の子どもの人学、教育問題が出てきます。どうということかといいますが、中国には戸籍という身分制度があり、都市戸籍の人と農村戸籍の人に分けられています。

私が中国にいたころは、農村戸籍の人は出稼ぎも許されませんでした。いわゆる不法滞在のような存在で、逮捕されることもありました。現在は、出稼ぎはいいのですが、原則として都会で学校に入ったり、就職したりすることはできません。都会の学校は、民工の子弟、出稼ぎ労働者の子どもを受け入れてくれない。それに学費も非常に高いの

です。出稼ぎ労働者は建築現場で一生懸命肉体労働をしても、安く使われるので、公務員の2分の1か3分の1ぐらいの給料しかもらえません。だから、子どもを学校に行かせることができない、かといって故郷に置いていくと離れ離れになるし、面倒を見てくれる人もいないので、農村の実家に預けるわけにもいきません。

最近の新しい動きとして、出稼ぎ労働者だけでお金を出し合って、労働者の中で中卒や高卒の人を頼んで、教室を借りて自分たちの子どもを教える、いわゆる民工子弟学校というところが最近ほどこまっています。しかし、政府からの補助金は一切もらえないので、すべて保護者から徴収する授業料で賄われていて、やりくりは非常に苦しいのです。もちろん、正視の学校と比べれば、設備や教員の質などの面において太刀打ちできません。こういうことが、今の中国では非常に深刻な社会問題の一つなのです。

## 朗読劇「あの日 私は」

戦争を知っていますか？語りつぐ女たちの体験（NHK出版）より

2007年9月16日（日） 14時

岡山県天神山文化プラザ・ホール

参加費：一〇〇〇円

（小中高生 三〇〇円）

朗読劇「あの日私は」

上演にあたって

大谷佑子さんのお話を聞く会

1945年の夏を語りつぐ会  
赤井藤子

1945年の夏を語りつぐ会は朗読劇などの文化的な取り組みを通して被爆・戦争体験を語りついでいる会です。今まで「この子たちの夏」ぼく生きたかった」「さよならが出来る日」「ゆゆうりえんれんを知っていますか」など上演しています。今年9月16日に天神山文化プラザで朗読劇「あの日私は」を上演します。この作品は1945年の夏4人の女

### 火災や救急通報を実際に学ぼう 総社消防署で講習を受ける 八月二十九日、総社日本語教室

本来は総社日本語教室独自で学習を予定していましたが、医療生協総社支部が、蝮にかまれた時、蜂に刺された時」の対処の仕方を計画していると聞き、通報の仕方も取り入れて一緒に参加させて欲しいとお願ひし、急遽実現しました。消防署には中国からの帰国者が三名参加しているので、ゆつくり、分かり易く、口を大きく開けて説明して欲しいと始まる前にお願ひをしてみました。（三〇名参加中に講師五人と受講生三一人）。しかし、消防署員の説明が聞き取れるだろうかとの講師達の心配をよそに「A」を持ってきて下さいとの署員の呼びかけにすぐ「はい」と言って対応。心肺蘇生法実習では、マニアルどおりに対応。電話での通報実習にもみんなが尻込みする中で積極的に実習に三名とも参加する姿に感動しました。

国境に近い虎林というところに開拓にいきました。

二番目の兄さんは現地で召集、父は53歳だったので引き揚げ直前現地に残されました。

奉天（現瀋陽）で赤痢にかかり死亡することを帰国後に知りました。東安駅の爆破で兄弟5人を一度に失った上、自分も助からないと思った母は3歳の妹を中国の人に預けたのです。

その妹も死んだと聞かされましたが、死に目にあつていないので、もしかしてと中国残留孤児のニュースは気にしています。何とか元気になった母と二人、中国で生き延び、昭和28年日本に帰国しました。

子どもが小学生の時、この戦争体験を子どもたちにしたことからNHKで放送されたり、手記を発表することになったりしました。皮肉なことに生き残ったのは兵隊になった兄たちと奇跡的に助かった私と母、家族11人で写した一枚の写真を見るとあの戦争、あの満州行きは何だったのかと思ひます。

大谷さんは5歳の時の記憶をはつきりと覚えていることについて閉ざされた厳冬の季節、兄弟で寄り添って濃密に過ごしたからではないかと話

総社市には外国籍の方も多く、通報があつた場合には分かり易く対応されているようですが、さらに署内に適切に対応するよう伝えておきます。「と言ふコメントも終了後いただきました。

総社日本語教室 西森文子

されました。私は大谷さんが自分の身に起つたことにどんな意味があつたのか、なぜ起つたのかをうやむやにしないで記憶の空白を丁寧な資料調査で埋められたのだと思ひました。体験を語りつぐためには時代背景、社会情勢、事実関係を明らかにして体験を客観化したうえで生身の感情を大切にすることが必要だと思ひました。

戦争の体験を語る人が少なくなるこれから私たちの取り組みがより必要とされるのかもしれない。東安駅爆破事件・・・1945年8月10日南満州鉄道東安駅で、関東軍が撤退に当たって弾薬を爆破処分。安全確認を怠つたため、満州を脱出しようとした満蒙开拓団が巻き込まれる。死者500人とも800人ともいわれる。（ウィキペディアより）